

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2022年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：182社（66.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

### — まん延防止等重点措置や、原材料費の高騰によって低調に推移 —

前年同期（2021年1月～3月）と比べた今期（2022年1月～3月）の状況  
今期と比べた来期（2022年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲33.1で、前年同期と比べ1.5ポイント上昇しました。新型コロナウイルスオミクロン株の流行に伴うまん延防止等重点措置の適用や、原材料価格や仕入価格の高騰により、業況は低調に推移しました。原材料価格や仕入価格、燃料費の高騰が深刻な状況にあります。

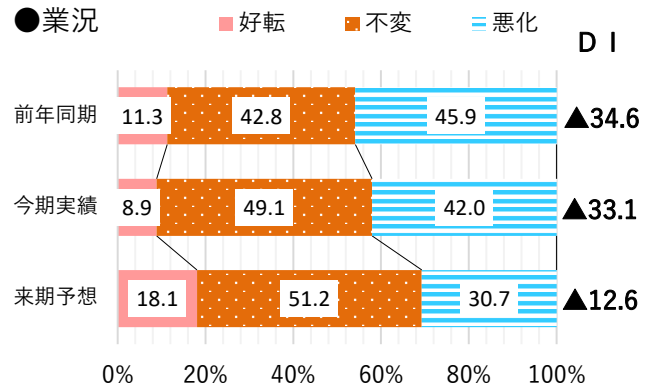
業種別DIは、製造業が同8.9ポイント低下の▲33.3となりました。売上DI、採算DI、資金繰りDIのいずれも低下しました。売上単価DIはプラスに転じましたが、9割超の企業で仕入単価が上昇しており、売上単価の引き上げに迫られているものの、十分な価格転嫁ができていない状況にあります。卸売業は同1.7ポイント上昇の▲35.0となりました。売上DI、採算DIはどちらも低調に推移しました。売上単価DIと仕入単価DIが大幅に上昇しており、製造業同様に、売上単価を上げざるを得ない状況にあると思われます。小売業は同25.5ポイント低下の▲44.0となりました。売上DI、採算DIも同様に低下しました。客数の減少傾向は緩和されたものの、依然として減少が続いています。仕入単価の上昇傾向が大幅に強まりました。運輸・倉庫業は同7.9ポイント低下の▲41.2となりました。燃料価格の高騰が、業況に大きく影響しています。前年同期比の売上DIは、貨物運送と倉庫で悪化傾向が強まりましたが、旅客運送では大幅に改善しました。観光業は同40.4ポイント上昇の▲41.9となりました。業況、売上、採算に大幅な改善が見られましたが、全てマイナス水準にとどまりました。利用客数はプラスに転じ、客単価の下降傾向も弱まりましたが、仕入単価の上昇傾向が高まっており、依然として苦しい状況にあります。サービス業は同13.8ポイント上昇の▲20.8となりました。売上DI、採算DI、利用客数DI、資金繰りDIも上昇し、好転傾向が見られますが、他業種同様、仕入単価の上昇傾向が大幅に強まりました。建設業の業況DIは横ばいの▲15.4となりました。受注額DIはプラスに転じましたが、材料仕入単価DIは大幅に上昇しており、採算の悪化や、従業員の不足が課題です。

来期の業況判断DIは▲12.6で、悪化傾向が弱まると予想しています。卸売業では業況の横ばいを予想していますが、他業種では悪化傾向の緩和を予想しています。新型コロナウイルスによる需要の停滞が続く懸念がある他、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、各種原材料や製品の仕入価格の上昇傾向が一層強まることが危惧されています。

業況、売上、採算

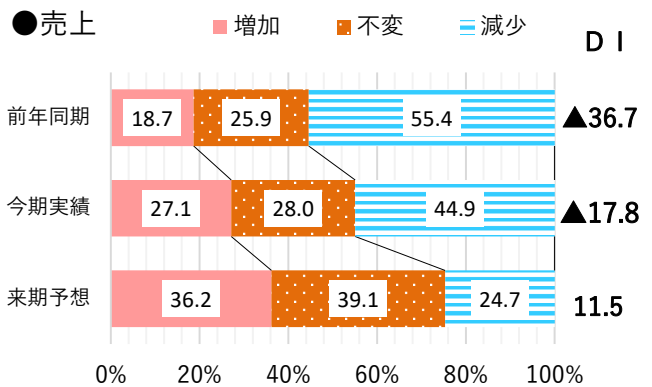
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲33.1で、前年同期(2021.1～3)と比べ1.5ポイント上昇しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



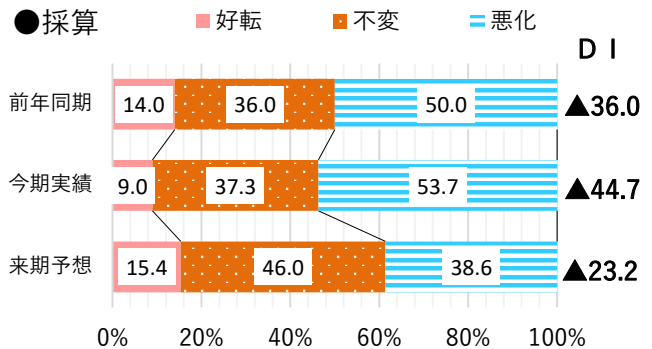
今期の売上DIは▲17.8で、前年同期と比べ18.9ポイント上昇しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

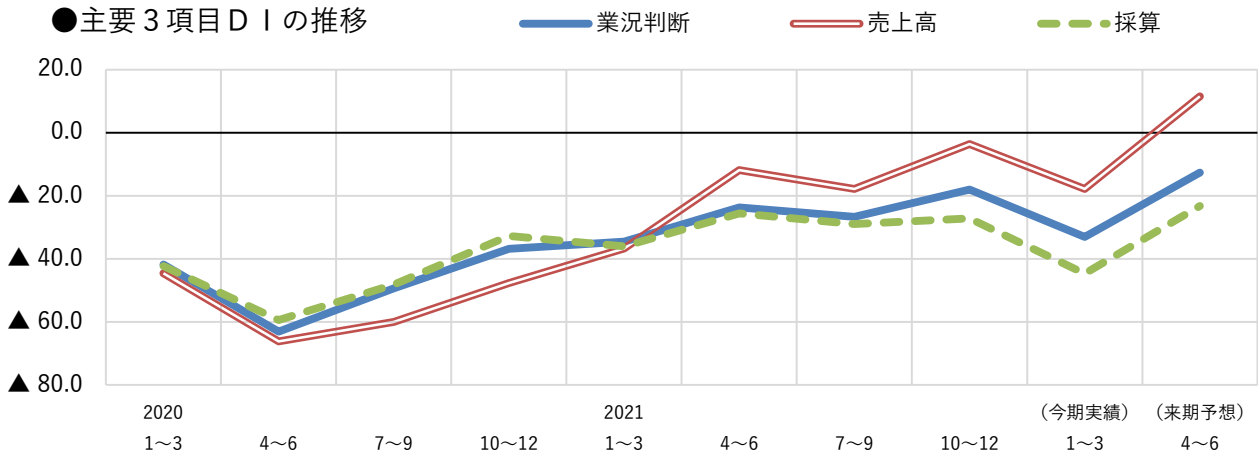


今期の採算DIは▲44.7で、前年同期と比べ8.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



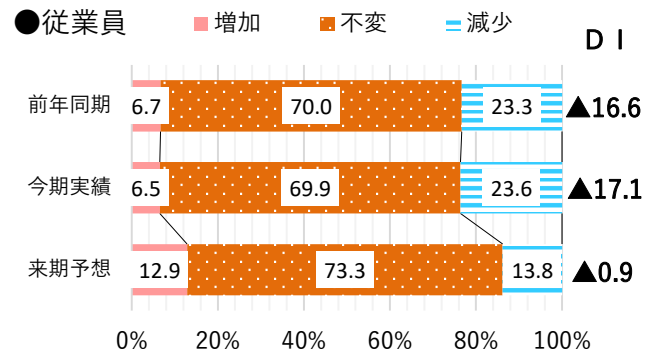
●主要3項目DIの推移



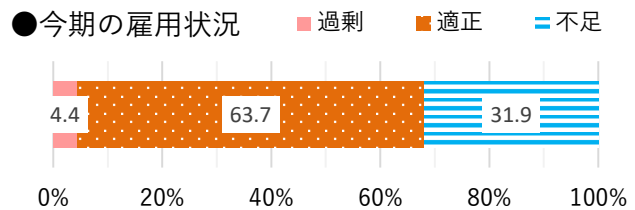
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.1で、前年同期と比べ0.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.4%、適正であると回答した企業の割合は63.7%、不足していると回答した企業の割合は31.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の47.8%を占めています。

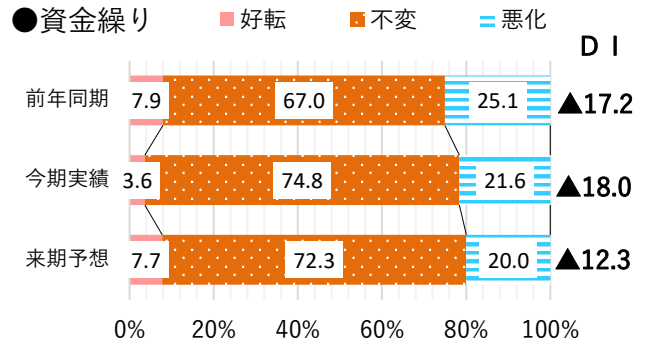
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	8
	不足	5
不変だった	過剰	5
	適正	87
	不足	30
減少した	過剰	4
	適正	18
	不足	25

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲18.0で、前年同期と比べ0.8ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった182社の27.5%にあたる50社が実施、前年同期と比べ0.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、37.4%にあたる68社が設備投資を計画していると回答しています。

